



# 高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル8F  
TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006  
URL: <http://www.hokkaido-koupren.com/>

## 今号の内容

- ▶ シリーズ北の志  
「おといねっぐ美術工芸高等学校」
- ▶ 交通安全標語・ポスター入選作
- ▶ 支部だより  
道南・根室
- ▶ 高P連全国・全道大会要項(案)

## 夢を創造する 北海道おといねっぐ美術工芸高等学校



木の手づくり展・東京 (H24.4.28 ~ 30 秋葉原 Arts Chiyoda)

# Heart to Heart 北の志

—ひたむきに頑張る君たちを応援したい—



卒業制作作品の展示



工芸授業 木工基礎Ⅱ  
(2年 機械実習)



デッサン講習



# 夢を創造する

「地域とともに、夢を語りあい活力を育みあう学校」

北海道おといねっふ美術工芸高等学校長 小松 信夫

## 1 音威子府村

音威子府村は、上川管内北部にある人口約800人余りの豊かな自然に恵まれた全道一小さな村です。面積の8割以上が森林であり、「森と匠の村」をキャッチフレーズとしています。本校は、こうした豊かな自然の中で、地域と一体となり、生徒、保護者、村の方々、教職員がともに「夢を語り活力を育む学校づくり」に邁進しています。



## 2 歴史

本校は、昭和25年に名寄農業高校音威子府分校として認可され、昭和28年には北海道音威子府高等学校となり、地域の高校教育を担ってきました。昭和59年には、北海道で唯一の全日制工芸科単置の村立高等学校、平成14年には校名を「北海道おといねっふ美術工芸高等学校」へと改名しました。

## 3 全国・全道から生徒が集う学校

創造 自主 飛翔」を校訓としています。卒業生、在校生、保護者、地域の皆様の努力で人気が高まり、今年度も40名の入学者を迎えました。九州、関西、関東など道外から20名の生徒が在籍し、115名の生徒が寮生活を送っています。学校と寮を両輪とする教育活動をとおして、基本的な生活習慣や自律心を育てています。また、テレビのドキュ

メンタリーや新聞等でも本校の活動が多数紹介されています。

## 4 部活動・進路



部活動は、全員が加入し活発に活動しています。特にクロスカントリースキー部は、平成15年、16年に全国制覇を果たしたのをはじめ、美術部、工芸部も10年連続して全国大会に出展しています。今年度の学生美術全道展では全道美術協会賞を受賞したのをはじめ、55名の生徒が入賞・入選することができ、本校の教育

活動と指導の成果が確実に評価されています。進路は、進学希望者が8割を超え、国公立大学や美術系大学への合格者も着実に増えており、生徒の多様な希望に応じた進路実現を目指しています。

## 5 特色ある取組

### (1) 木の手づくり展

生徒の卒業制作や在校生による生徒作品展の「木の手づくり展」を、上川合同庁舎と北海道庁で毎年行っています。今年度は、4月に東京の秋葉原でも行いました。PTAと卒業生の協力で準備を進め、家具などの木材工芸、油彩画などの美術作品などを展示し、本校の魅力をPRしました。(2) 国際理解教育



スウェーデンのレクサンド高校との姉妹校提携により、生徒の派遣と受入を行っています。北欧の先進的なデザインに直接触れることで視野が広がり、デザイン力の向上にもつながっています。

### (3) 高大連携



東海大学と提携し、年8回の事業を行っています。大学の教授による講義や実習による直接指導により、生徒の作品のデザイン力と質が大きく向上しています。

### (4) 地域行事への参加

村民運動会や植樹祭などの村の行事へ積極的な参加をしています。行事をしたことで、地域住民とのふれ合いの中で、高校生と地域住民との一体感がさらに深まっています。

### (5) 学校祭

PTAが出店を出すなど、PTAの学校祭への積極的な参加と協力があります。保護者と生徒が一つになり、手づくり感のあるアットホームな学校祭となっています。



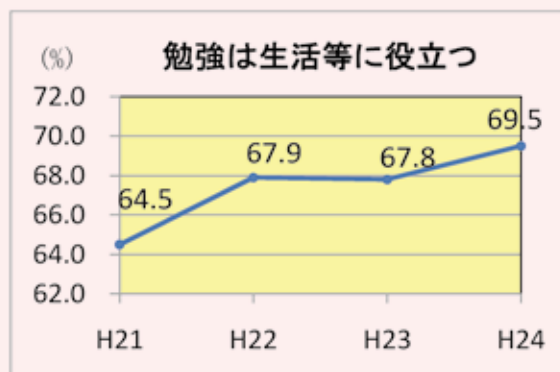
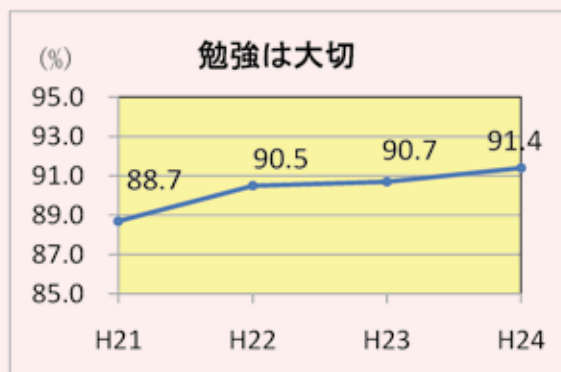
## 本道の高校生は、家庭学習習慣に課題があります

北海道教育委員会

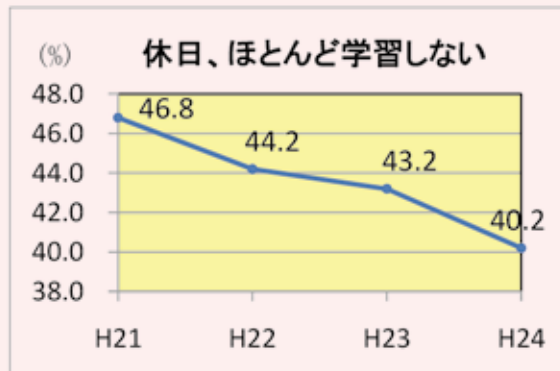
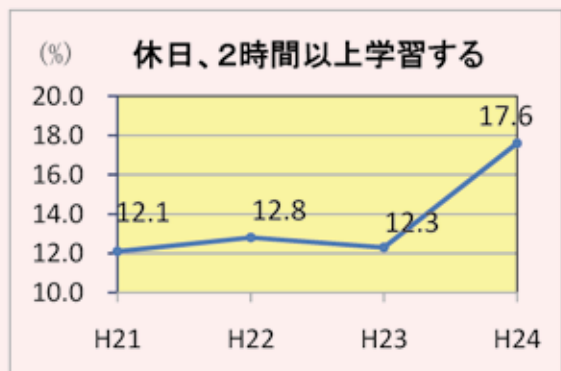
次のグラフは、生徒の学習状況や学習内容の定着状況を把握するため、主に2年生を対象に毎年実施している「北海道高等学校学力等実態調査」の結果から、特徴的な項目についてまとめたものです。

(平成24年度：参加学校232校、参加生徒数27,216名)

■ 勉強は大切であり、自分の将来に役に立つと考える生徒が増えています。



■ 休日の家庭学習の状況は改善されつつありますが、約4割の生徒がほとんど学習していません。



○ 各学校では、自校の「学力等実態調査」の結果を踏まえ、高校生が将来、社会で自立して生きていく力や、進路希望の実現に必要な力をしっかりと身に付けることができるよう、

- ・理科や数学などの教科において、実生活と関連付けた学習指導
- ・生徒による授業評価を実施し、その結果を活かした「わかる授業」づくり
- ・週末に課題を出すなどして、家庭学習習慣の定着

などに取り組んでいます。



自分の夢を叶えるため、今、取り組むべきことやその大切さなどについて、ぜひ、お子さんと話し合う時間をつくってみてください。

**お矢のせ**

## 高等学校就職促進マッチング事業

道教委では、生徒や保護者、進路指導担当教員を対象に、福祉分野や農林水産分野などにおいて、求職と求人のミスマッチが生じている企業・業種への理解促進を図るため、見学会等を実施し、職業選択の幅を広げるなど就職支援の充実を図っています。見学先の事業所において、概要説明や、作業現場の見学、従事者との意見交換等を行い、保護者からは、「各企業の方々の職業観を拝見し感動した。実際に働いている若い社員のお話も高校生の参考になったと思う。」などの感想をいただいています。

平成25年度も同様の事業を各管内で実施することとしており、高校からご案内がありましたら、ぜひお子様といっしょに見学会へご参加ください。







# 交通安全標語・ポスター入選作

(高等学校長協会提供)

## 交通事故死ゼロを目指して

北海道高等学校長協会会長 山本 伸弘

昨年の北海道における交通事故の犠牲者は190人でした。交通事故による死者数がピークであった昭和46年の889人と比べると4分の1まで減少はしているものの、依然かけがえない生命が失われたり、負傷を余儀なくされたりする方が後を絶たない状況に大変心が痛みます。

今年も交通安全関係諸団体が一体となり、「ストッパ・ザ・交通事故死」をめざせ安全で安心な北海道」をスローガンに、交通事故防止活動に取り組んでいます。しかしながら、交通事故を減少させようとの思いも空しく、高齢者並びに高校生を含む若年者の交通事故の痛ましいニュースが続いています。

こうした中、本協会では、調査研究部学校安全小委員会が中心となり、高校生が自らの命と他者の命を大切にすること、交通安全マナーを身に付け、交通事故の危険に対する感受性を高めることを期待して「交通安全標語・ポスターコンクール」の事業を続けてきており、今年で

31回目を数えております。

今年の応募状況は、標語が51校から770作品、ポスターは28校から177作品が寄せられました。応募いただいた生徒の皆さんと指導に当たられた先生方に、心から厚くお礼を申し上げます。

これらの貴重な応募作品につきましては、外部審査員の皆様に慎重な審議をいただき、入選作品を決定し、本紙に掲載したところで、受賞された生徒の皆さんには、心より敬意を表します。本作品集並びに最優秀の標語とポスターは、交通安全を志す本道高校生のメッセージとして、道内の全ての高等学校と関係の機関、団体並びに関係報道機関にお届けいたします。

終わりに、交通安全標語・ポスターコンクールの事業の推進に当たり多大なお力添えをいただいたとおり、北海道高等学校PTA連合会並びに関係の機関、団体の皆様に心から感謝を申し上げ、発刊に当たつてのご挨拶いたします。

## ポスターの部

### 最優秀賞



札幌白石高等学校  
まんがイラスト部

### 優秀賞



石狩翔陽高等学校  
3年 久保田 凌

### 優秀賞



石狩翔陽高等学校  
3年 大内 沙紀

## 標語の部

### 最優秀賞

◆過信です あなたの口癖「大丈夫！」

南茅部高等学校 3年 濱田 まりん

### 優秀賞

◆守りましょう 大人が子どもを 夢たちを

芽室高等学校 2年 須崎 春華

◆「ただいま」を 笑顔で待ってる 親がいる

南富良野高等学校 1年 佐藤 志穂

◆断ろう 乗るも乗せるも 二人乗り

帯広工業高等学校 3年 五十嵐 涼

◆小さな手 大きく挙げれば 赤信号

森高等学校 3年 水口 翔陽

◆「いつてきます」 最後にしないで その言葉

厚真高等学校 2年 佐藤 花菜

### 佳作

◆思いやる ハートが未来を 護ってる

鹿追高等学校 1年 木村 衣玖

◆目指すのは 無事故という名の 金メダル

七飯高等学校 2年 金田 楓花

◆ただいまと 笑顔で言うため 守るマナー

霧多布高等学校 1年 箱石 朱音

◆メール「ミテ」 目の前「ミヌ」人 未来「ミズ」

帯広工業高等学校 2年 下口 侑也

◆事故がない 笑顔が歩く 北の街

森高等学校 2年 大坂 麻衣

◆無事故の実 みんなで育てて 笑顔咲く

松前高等学校 1年 村岡 里緒

## 子どもたちのメンタルヘルス向上支援事業 北海道シンポジウム

### 演題「子どものうつ」 ～発達障害の視点から～

・講師 北海道大学大学院保健科学研究  
生活機能学分野教授 傳田 健三 氏

・期 日 平成二十四年十月十二日(金)

・会 場 とかちプラザ レインボーホール

・主 管 北海道高等学校PTA連合会十勝支部

・主管校 北海道帯広工業高等学校

子どもたちの健全育成をテーマに開催している講演会は、今年度で六回目となります。今年度の講師には、北海道大学大学院保健科学研究生活機能学分野教授の傳田健三先生をお迎えし「子どものうつ」発達障害の視点からと題して講演をいただきました。参加者は全道各地を始め十勝管内の小・中・高のPTA関係者約二百名が集まりました。

講演の内容は、うつ病の分類、うつ病の診断と特徴(基本・症状・症例)、うつ病の治療、教師の対応等、先生の経験に基づいた大変貴重な講演でした。その中で、子どものうつ病に対しては、①精神療法的アプローチが重要な意味をもつ。子どものうつ病の精神療法は、一人の人格として



尊重し常識的で、ごく普通の対応をし、より総合的なアプローチが必要 ②心身ともに疲れ果てている子どもには休息を促し、干渉的にならぬように寄り添うことが大切 ③大人よりも環境要因の影響が大きいので、学校や家庭での状況を詳細に聞き、つらかったこれまでの状況等を理解し、元気が出てきたら焦らずに少しずつ、これからできることを共に考えていくこと

が大切。等のお話をいただきました。



今、学校現場においては、特別支援教育や様々な障害をもつ生徒への対応が急務となっております。そのためには保護者と学校との密な連携が最も重要であり、障害を早期に発見し、迅速かつ正確な診断を受け、それをもとに適切な治療法を選択することが必要です。そのためには、家庭と学校が同じ目線で子どもを見守っていくことが重要であることをあらためて教えていただきました大変貴重な講演でありました。

最後に、ご協力いただいた関係の皆様から感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

(帯広工業高等学校)

教頭 飯田耕一郎

## 北海道高等学校PTA連合会研修会

### 「スマホ時代」を生きる 高校生の課題と可能性について

・講師 兵庫県立大学環境人間学部  
准教授(教職担当) 竹内 和雄 氏

・期 日 平成二十四年十二月二日(日)

・会 場 ホテルライフオーソート札幌

・主 催 北海道高等学校PTA連合会  
健全育成委員会

・共 催 安心ネットづくり促進協議会

「安心ネットづくり促進協議会」との共催で、道高P連健全育成委員会が保護者や教職員を対象に企画したこの講演会は、根室支部長でもある大村学健全育成委員長の司会と中島会長挨拶で始まりました。冒頭で総務省北海道総合通信局の諏訪公男課長の「スマートフォン等の安心・安全な利用環境の整備に向けた総務省の取り組み」のお話が続いて、竹内和雄先生のご講演が始まりました。

大学ご卒業後、公立中学校で20年間、主に生徒指導主事を担当され、その後、寝屋川市教育委員会指導主事を経て、現在、兵庫県立大学で教鞭をとられている竹内先生は①世界のパソコン・ケータイ事情、②スマホ時代の到来、③スマホが

危険と言われる理由、等々、パワーポイントを巧みに駆使した資料の提示、そして随所に笑いを織り交ぜた関西弁の圧倒的な話術で、出席者の気持ちを瞬く間に引きつけてしまいました。そして、何よりも強く感じられたのは生徒・学生を支援したいという竹内先生の視線、熱意です。ご講演の最後に「スマホの利用には様々な注意点がありませんが、どんなフィルタリングよりも大切なことは、相談できる大人や友人を持つて

いること」であり、「スマホの問題は心の問題」だと結ばれました。スマホについての知識だけではなく、出席者の心の中に、竹内先生の温かいお人柄までもがストリートに伝わってくる素晴らしいご講演でした。



アンケートの感想は「とてもわかりやすい」が圧倒的で少数の「わかりやすい」を含めるとほぼ全員の感想でした。また、自由記述欄には、「楽しかった」「時間不足が不満」「もっとお話を聞きたかった」という主旨の記述も散見され、大変好評のうちに終了することができました。

竹内和雄先生。本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。(道高P連 事務局長 宮川 恒美)





## 支部だより

南部  
道支

## 「歴史の風」

道南支部長 田 原 智佳子  
(北海道函館水産高等学校PTA会長)

歴史の薫りを多く含む道南地方も今年は昨年に引き続き雪の多い冬でした。それでも、少しずつ春めいて道内で一番最初に桜の季節を迎える準備が始まりつつあります。

過ごすことができたようです。

さて、道南支部では昨年6月1日にマリエル函館において、道南32校35単Pの方々に参加をいただくとともに、北海道高等学校PTA連合会幹事(現副会長)村上義人様のご出席、ご挨拶をいただき、道南支部総会を開催いたしました。今年度から事務局が北海道函館中部高等学校から北海道函館水産高等学校に替わりましたが、総会は無事終了し、教育懇話会では各々のテーブルでPTA経験者が久しぶりに顔を合わせる機会となり、とても話が弾み、楽しいひとときを



11月22日には函館大学附属柏枝高等学校の主管のもと道南支部研修会が開催され、児童精神科医の清水将之様より「日本人の子ども観」と題して、日本とヨーロッパの子ども観の相違を絵画、彫刻、文学の視点から検証され、日本では子どもを大切にすることが脈々と続いており、文化の層の厚い国であるとお話をいただきました。また、北海道大野農業高等学校PTA会長丸岡様よりPTA活動についてご提言をいただき、192名の参加者の皆さんと一緒に大農さんのPTA活動に参加した気分になされ、活発な意見交換もなされました。さらに、渡島教育局柴野貴史様よりPTA活動は保護者同士の交流を深める良い機会としてくださると、心のこもったご助言をいただき、とても充実した研修会となりました。



戦する姿が最近よく目に付くようになってきています。起業家としてチャレンジする若者や、地区の活性化を図ろうとして様々なイベントを発信する若者、老若男女が集える空間を考える若者など、住みやすい道南、楽しい道南を創ろうとしてくれています。我々大人もそんな若者たちを心から応援して、自分たちの子どもたちにも地域のために自分は何ができるのか考えてもらおう機会を多く作っていきたくと思っています。古い歴史も大切ですが、新しい歴史を刻んでいくって欲しいものです。

最後に道南支部の皆様には各単PのPTA活動でも大変なところを、支部の活動運営にご協力いただきまして心から感謝申し上げます。

近年、少子化、若者の地元離れなどで道南地方も例外なく若い世代の方々が少なくなってきました。けれどその少ない若い世代の方々がいろいろなことに挑

室部  
根支

## 「支部活動の充実をめざして」

根室支部長 大 村 学  
(北海道中標津高等学校PTA会長)

を上げることができました。



根室支部の活動としては、6月に総会・指導者研修会、11月に役員会が実施されています。本年度の総会・指導者研修会は、6月2日(土)に、支部長校である北海道中標津高等学校PTAが主管となって、中標津町のトーヨーグランドホテルで行われました。総会には、北海道教育庁根室教育局教育支援課長洪川賢一様に来賓としてご出席いただき、管内43名の単P役員、教員が参加して、本年度の事業計画や予算を審議しました。続いて行われた指導者研修会では、講師にピットクルー株式会社インターネット利用者行動研究室長高橋大洋様を迎え「高校生のインターネット利用の本当のリスク―保護者が知っておくべきこと―」と題したご講演をいただきました。急速に普及するスマートフォン等の危険性について、子供を持つ親として貴重な勉強の機会となりました。その後、教育懇談会では各単Pの取り組みや、それぞれが抱える問題点に

ついて活発な意見交換をおこない、大変有意義な時間となりました。また、11月には、役員会が、中標津町の寿宴で行われました。役員会には、中標津町教育委員会教育長小谷木透様に来賓としてご出席いただき、管内39名の支部役員、単P役員、教員が参加して、事業内容の報告や、次年度の事業計画案について審議をし、了承されました。

平成25年度には、北海道高等学校PTA連合会大会が釧路市で開催されます。この大会は、釧路支部、根室支部が主管となって行われます。支部をあげて準備をいたしておりますので、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。





